

仙台市×東北大学 スーパーシティ構想 ～キャンパスから未来都市が拡がる～

1

「仙台市×東北大学スーパーシティ構想」の狙い

市民×大学×ビジネス（C-U-B: Citizen-University-Business）による協働

仙台では、復興の10年間で地域社会と科学技術の交点が急速に拡大

- ① 地域防災 → 国際的災害科学研究 → "BOSAI"が世界用語へ（世界防災フォーラム）
- ② 地域医療 → 東北メディカル・メガバンク計画 → 未来型医療の拠点づくりへ
- ③ 産学官連携 → 次世代放射光計画 → 新産業創造（10年で1.9兆円規模）へ

**スーパーシティ仙台により、都市のトランسفォーメーションを先導、東北全域へ展開
東京一極集中に対する多核連携の拠点機能を形成**

青葉山新キャンパスから仙台市街を望む

次世代放射光施設建設地（CGイメージ）
(量子科学技術研究開発機構、2023年運用開始予定)
放射光施設はナノを見るための巨大な顕微鏡
材料、食品、生命、創薬等のR&Dに必須

サイエンスパーク約4万m²（CGイメージ）
東北大学キャンパスにおいて、
産学官が結集して、大学とともに
社会価値創造を行う共創の場

パーソナルヘルスケア
日常人間ドックと健康習慣

ロボットとの共生
ロボが溶け込む生活

スーパーシティ
5領域

人と社会の
つながり
学び・多文化社会イノベーション
協創・体験
防災/レジリエンス

エネルギー
自立分散
レジリエントな
小型発電と見える化

マイクロ
モビリティ
ラストワンマイルの
移動提案

共通ID・データ連携基盤

2

未来都市ショーケースとなる東北大大学キャンパス

仙台駅から5km圏内に立地する東北大大学キャンパスでは、学ぶ学生が1.8万人、働く教職員が1.6万人、訪問者が月間9.9万人と仙台市民(109万人)の10%程度が交流する。市内総面積約330万平米の大学キャンパスには、多数の教育研究施設や企業入居施設、オフィス施設等に加えて、留学生と日本人が1,700名規模で混住するユニバーシティハウス／学生寄宿舎、地下鉄駅、バス停、レストラン、カフェ、コンビニエンスストア、売店、保育所(250名規模)、図書館(蔵書430万冊)、博物館、病院(1,200床規模)、植物園、農場(市外鳴子地区にも1,900万平米が所在)、駐車駐輪施設、各種運動施設、音楽・イベントホール(1,300席規模)、遊歩道、公園、さらには次世代放射光施設やスパコンなどの大規模研究施設群が整備され、一つの「まち」として機能している。本スーパー・シティ構想では、国内最大規模の大学病院をはじめとする大学施設の利用者も含めて対象とする。



東北大大学青葉山新キャンパス 市民が暮らし働くまち



データ連携と規制・制度改革

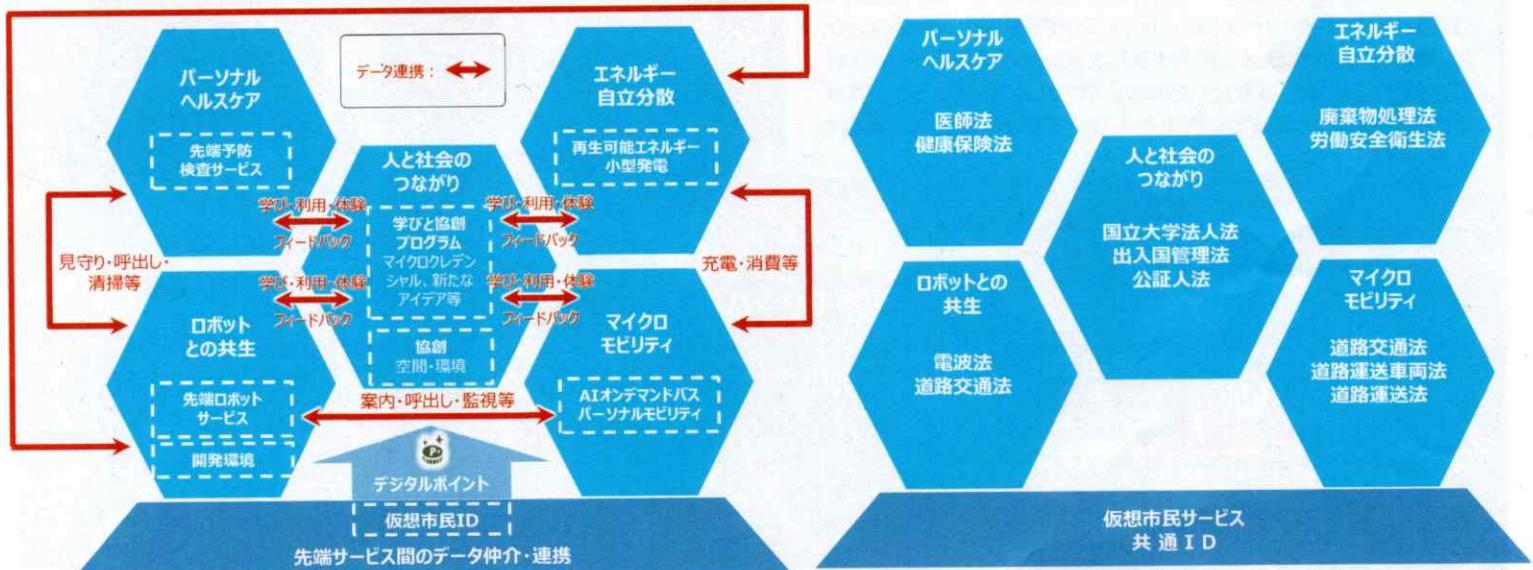
データ連携

データ連携基盤を通じて個々のサービス領域のデータを連携

規制・制度改革

大胆な規制改革等を通じてサービス提供を実現

充電・消費・施設管理等



仙台市×東北大学 スーパーシティ構想準備検討会



会長
(仙台市長)



共同事務局（仙台市・東北大学）



アーキテクト

統括（リードアーキテクト）



通信技術・国内外連携



起業家・ダイバーシティ



サイバーセキュリティ



参画事業者：64事業者



データ
連携基盤

Orchestrating a brighter world

NEC

NECネットエスアイ

NECソリューションイノベータ

Digital Platformer
SG Innovations

SG Innovations

Fabo
nrgc

SORAMITSU